



DC・PDのための進路選択ガイド

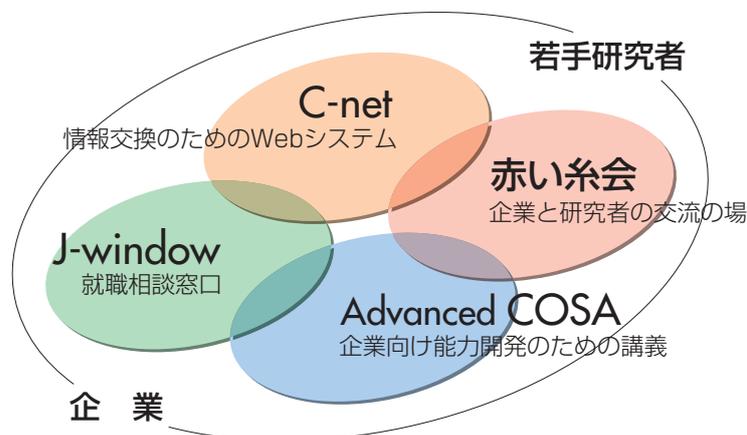
Career path Guide



S-cubic

北海道大学 基礎科学人材社会活躍推進計画

平成18年度から、文部科学省は「科学技術関係人材のキャリアパス多様化促進事業」を立ち上げ、博士号取得者等の若手研究者の高度な専門性と広い視野を有する有能な研究者が、社会のいろいろな分野で、その能力を発揮できるようにするための支援事業を開始しました。「北海道大学基礎科学人材社会活躍推進計画（基礎科学S-cubic）」は、本事業に採択されたプログラムです（平成18年度-20年度）。北海道大学が産業技術総合研究所と連携して推進しています。このプログラムでは、大学院博士課程学生（DC）や博士研究員（PD）等の若手研究者が、特に産業界において活躍するための課題を明らかにし、組織的な支援を行うものです。本事業では、支援事業を開始するにあたり、その課題を明確にするために、基礎科学領域のDC・PDの皆さんを対象として、大学院理学研究院に本プロジェクトの拠点となる「基礎科学上級スキル人材ステーション（Superior Skill Station）:基礎科学S-cubic」を設置し、若手博士研究者のキャリアパス構築のためのさまざまな活動を行っています。事業を進める中で、DC・PDの方々のキャリアパスに対する考え方や、企業側の博士号取得者に対する期待や採用に関する考え、指導教員の考え、また、大学としての対応すべき課題など若手博士研究者が産業界に進出し活躍することに関するいろいろなことが明らかになりつつあります。また、これらの経験や実態情報は、本事業に関係する全国の大学関係者、企業関係者および文部科学省関係者が一堂に会する意見交換会等の場で公表・議論し、各大学での取り組みを効果的にすすめる方策を議論しています。その結果は、各大学や企業、国にフィードバックして若手研究者の皆さんを育成・支援する施策に反映されています。本事業は、基礎科学という名前をつけていますが、対象は自然科学の全領域のDC・PDの皆さんです。本事業は単なる就職活動支援だけではありません。皆さんが培った優れた能力の活かし方を考える機会となればと活動を行っています。また、皆さんからの意見・希望等を可能な限りとりいれて事業を行っています。ぜひ、本事業に参加して、自らの進路を考えてください。また、本事業へのご意見をお寄せください。北海道大学S-cubicは、博士研究者の皆さんの活躍を総合的に支援します。



C
O
N
T
E
N
T
S

1. 産業界におけるDC・PDへの期待……………	3
2. 企業の視点から（博士課程修了者への考察）……………	4
3. S-cubicとは?……………	5
4. 北大OBの企業就職者インタビュー……………	6
5. S-cubic イベント参加体験記……………	8
6. S-cubicの事業について（4つのプログラム）……………	11
7. DC・PDの就職活動……………	13
8. イベント・アクセス……………	14

博士研究員の数は、10年前に比べて飛躍的に増加しています（図1はその例として北大理学研究院における博士研究員の数の変動）。他方、大学や研究機関などでの助教や准教授、教授などのアカデミックポストの数は、緩やかな減少を続けています。このため、アカデミックポストへの就職は狭き門となっています。しかし、博士研究者の能力はアカデミアでしか発揮できないのでしょうか？昔は、教員も学生も博士号＝アカデミックポスト就職という考えを持っていました。しかし、現代の科学技術の世界では、大学と企業の優劣はなく、企業研究者がノーベル賞を取ることも、分野によっては企業のほうが研究に適していることも多々あります。また、国際社会において、今後、日本企業はフロントランナー型の研究開発をおこなうことが必須であるため、さらに最先端の研究を世界を舞台に積極的に進めつつあります。これらの点からも、独自に新しい分野を開拓する能力を有した博士研究者への産業界からの期待は高まり、企業も博士研究者が大学同様にその能力を十分に活かす場であるといえます。さらに、博士研究者に期待されている能力は、深い専門知識だけではなく科学技術を見通す広い視野と主体的な行動力にあります。これらの能力を持つ博士号取得者の活躍を考えると、企業の研究所のみならず図に示すように多様な活躍の場が広がっています。

しかし、残念ながら、このような状況を知って、積極的に活動している博士課程学生(DC)や博士研究員(PD)の方は、まだ少ないといえます。また、企業や業種によっても、博士研究者に対する過去の悪いイメージを持って採用を控える企業や、各企業の就職サイトに博士研究者(DC・PD)対象の情報を掲載

していない企業も多数あります。しかし、S-cubic事業で、各企業に個別に問い合わせると、非常に多くの企業が本事業の就職サイト(C-net)への博士研究者向け求人掲載を歓迎しています。また、昨年から、急激に博士研究員を採用しようとする企業が増加しています。DC・PDの採用は、学部・修士卒の学生とはまったく異なるプロセスがあります。S-cubicのイベントへの参加やこのパンフレット等を活用してキャリアパスに関する情報を効率よく得つつ、社会への活躍をすすめてください。

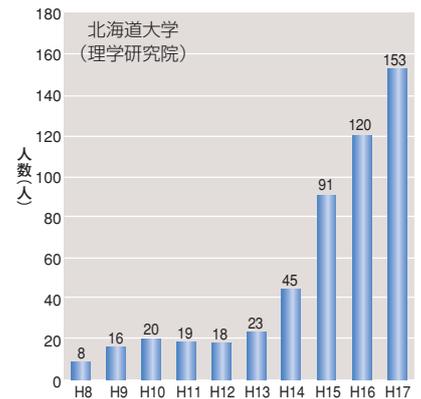
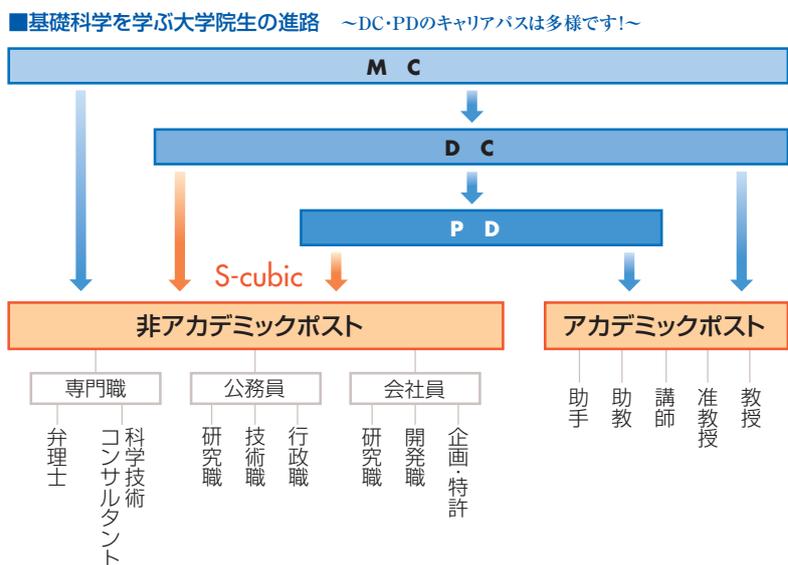


図1.PD研究者数

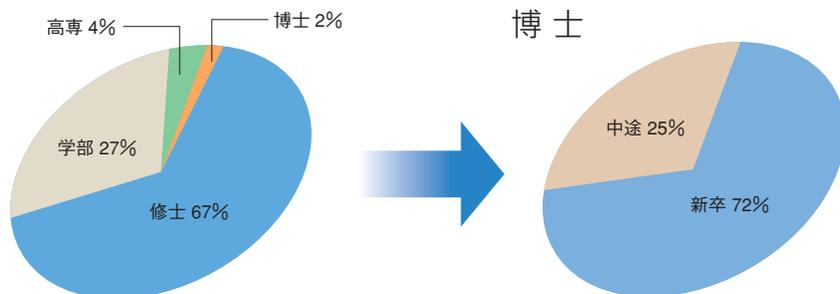


企業採用実績について (日本経団連産業技術委員会アンケート調査より)

- 企業の採用の約7割は、修士課程修了者
- 博士課程修了者の採用は全体の2%程度。そのうち約25%は中途採用

技術系人材の採用実績

(70社—8093名)

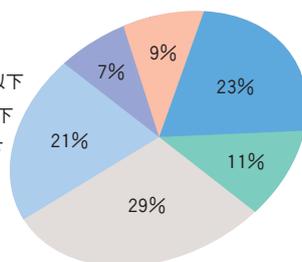


企業における博士号保有者について (日本経団連産業技術委員会アンケート調査より)

博士号保有者の人数

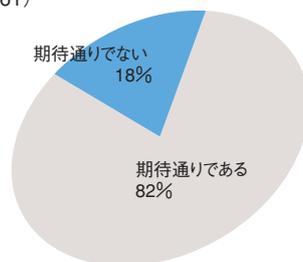
(70社—4615名)

- 101名以上
- 51名以上100名以下
- 11名以上50名以下
- 1名以上10名以下
- 0名
- 未回答・未公表



博士号保有者の資質について

(n=61)



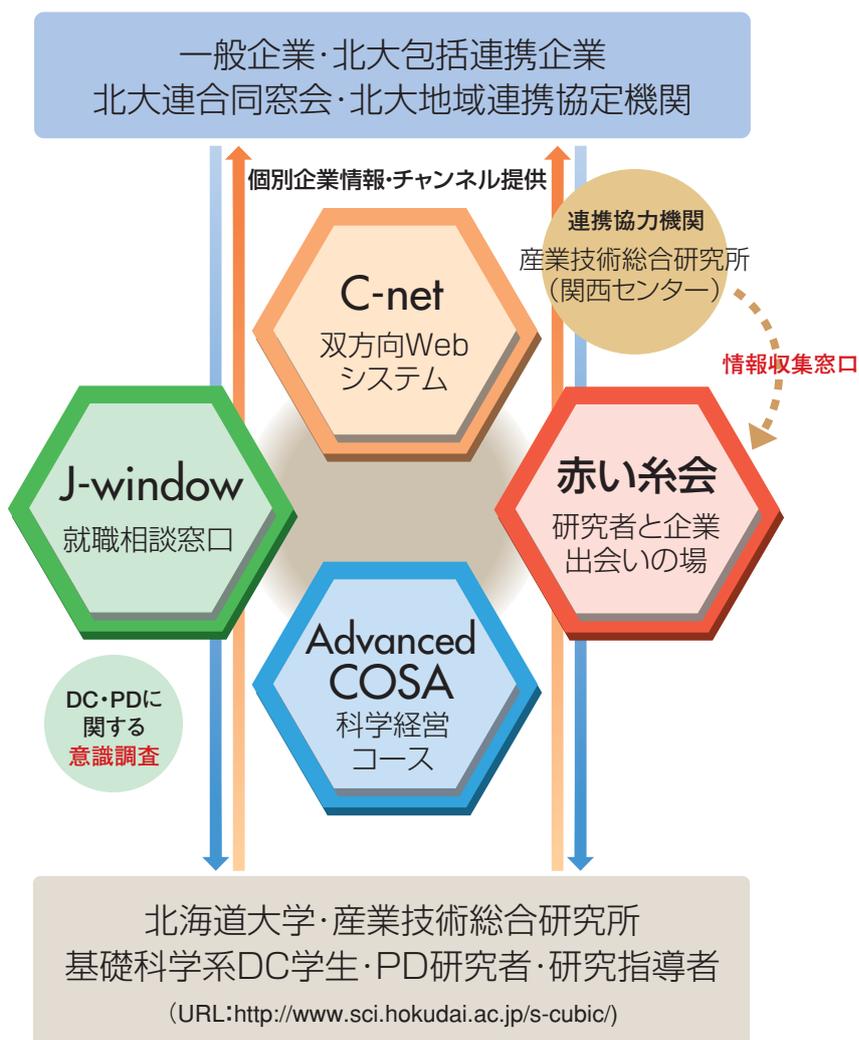
S-cubic 赤い糸会に参加して ~企業参加者によるコメントより~

◆DC・PDの前向きな姿勢に驚きました。アカデミアにこだわらないフレキシブルな方が参加されているのでしょうか、このような活動を繰り返していけば、双方の見方が変わりバリアも取れると思います。

◆これまで関係ないと考えられていた分野も、技術の進展に伴い、関連性があることに最近気づいています。ただし、具体的な組織体制作りが追いついていない点、また、技術者育成の観点で長期的な業務の創出という点で根柢が弱い点があり、ジレンマを感じています。

◆課題解決型の人材を希望しております。DC・PDならば1つは課題解決できたものと考えられますが、リーダーとして一人でこの先も課題を解決できるのか、その資質が見えるようなことが出来れば異分野でも採用可となると考えます。

◆DCの学生から「学位が卒業までに取得できるか不安あり。就職時に学位がないと企業は採用してくれないですね」との質問がありました。「会社は人材を求めているのであって学位を求めているのではない」と回答しましたが、学生の多くがこのような誤解をしているのでしょうか？少なくとも弊社ではDCでも学位取得の有無は採用可否に関係ありません。



大学院博士課程学生(DC)や博士研究員(PD)等の若手研究者が、特に産業界において活躍するための課題を明らかにし、組織的な支援を行うものです。事業内容として、以下のプログラムを進めています。

- ① **C-net**: 博士研究者と企業双方の就職関連情報を掲載する登録制の双方向Webシステム(無料)
- ② **Advanced COSA**: 企業研究の第一線で活躍されている方々を講師としてお招きし、講義を行って頂くプログラムです。(修士課程でも履習できる大学院共通授業科目として開講)
- ③ **赤い糸会**: 企業担当者と若手研究者の出会いの場
- ④ **J-window**: 企業への人脈を構築し、キャリアプランの立て方等をアドバイスします。

本事業期間は平成18年度から20年度までとなっています。その後は、北海道大学に推進組織をつくり大学の事業として継続する予定です。

※S-cubic事業の詳しい説明は11-12ページをご覧ください。

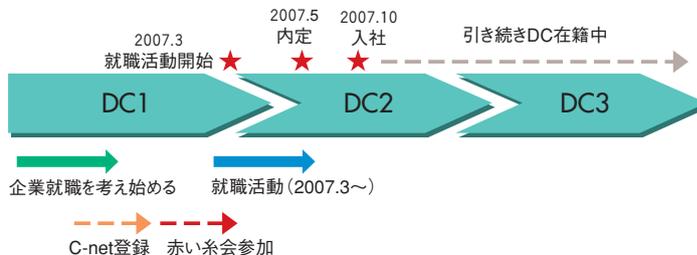
セイコーエプソン株式会社 GPSビジネス推進部 山形 整功

Profile

2003.12 ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校 物理科 卒業
 2006.03 北海道大学 大学院理学研究科 物理学専攻 修士課程修了
 2006.04 北海道大学 大学院理学院 量子物理学専攻 博士課程入学 (在学中)
 2007.10 セイコーエプソン株式会社 入社

S-cubic参加

赤い糸会・東京(2006.10)、赤い糸会・札幌(2007.2)



民間企業に就職を希望するDCやPDの方々に就職活動の体験談を通してのアドバイスを、ということでS-cubic事務局から原稿作成の依頼を頂きました。その際、就職活動に関する幾つかの質問も頂きましたが、“就活”の“技術的”なことは、既に皆さんよくご存じのことと思いますし、また、他の方々も書かれると思うので、私の方では民間企業で働く一エンジニアとして、DC・PDの“強み”について思うところを書きたいと思います。これを読んで、とかく暗くなりがちなDC・PDの就職活動を少しでも元気に乗り切ってもらえればと思います。

とにかく何よりも強調しておきたいことは、皆さんは優秀だということです。なぜ優秀かという、それは学問を身に着けているからです。その職場、企業で優秀といわれるエンジニアは例外なくよく勉強しており、非常に高い学問的見識を身に着けているものです。勿論、エンジニアたるもの誰しも学問の重要性はよく理解しています。しかし、日常の業務に追われる中で、学習の時間を確保出来ずいたり、学ぶには既に遅い年齢になっていたりするのが実状です。そういった視点で考えると、20代という、学ぶには絶好の時期に、会社の仕事に煩わされること無く、学問に没頭することが出来たDC・PDの皆さんは、結果的には正しい進路選択をしているといえます。

優秀だといえる根拠は他にもあります。物事を体系的に考える訓練を多くこなしていることや、継続的に思考を酷使する

ことを厭わない、たくましい知的体力などは、どれもDC・PDの人間にとっては極当り前の経験や能力でも、民間企業のエンジニアとしては非常に貴重な経験や能力だったりするのです。

恐らく博士課程に進学した人の多くは——特に、その人が民間企業への就職を考えているのであれば——自らが博士の学位を目指したことを後悔する瞬間があると思います。が、それは間違いです。

確かに、現時点において、企業のDC・PDの採用活動は、積極的とは言い難い面があります。しかし、それは、企業側が皆さんの能力を測りかねているからでもあるのです。企業側からすると、DC・PD出身者が、将来的に企業にどのように貢献してくれるのかを想像するのは、前例が余り無いだけに、大変難しいのです。であればこそ、皆さん自身こそが、皆さん自身をしっかりアピールする必要があります。

とにかく自信をもって欲しいと思います。変に迎合したりする必要は全くありません。自らが身に着けた知識や能力を、企業という場を借りて社会に還元するのだというぐらいの気概をもって、就職活動に臨んで欲しいと思います。DC・PDの皆さんに活躍の場が与えられないということは、皆さんにとっても、社会にとっても、そして、皆さんが働く場であろう企業にとっても大きな損失なのです。健闘をお祈りします。

Q&A

Q 現在の職種、具体的な業務内容を教えてくださいか？

A GPSの要素開発。

Q 民間企業への就職を考えたのは、いつごろからでしたか？

A 博士進学時から。

Q 就職することに対する、研究室での反応(教員も含めて)はどうでしたか？

A 指導教員の先生が民間企業出身ということもあり、親身に相談のってくれた。

Q 研究活動と就職活動との両立をどのように行っていましたか？

A 指導教員の先生の理解を得ることがなによりも大事だと思う。

Q 民間企業への就職を希望しているDC・PDの方にアドバイスがあれば、一言お願いします。

A 研究生活での苦労は無駄になりません——というより、無駄にはいけないと思います。DC・PDが如何に得がたく、そして社会(あるいは、会社)にとって有意義な人材であるかを、まずは、皆さんこそが良く認識し、そして、そのことに大いに自信を持って欲しいと思います。

新日本製鐵株式会社 技術開発本部 西本 工

Profile

2001.03 北海道大学 工学部 材料工学科 卒業
 2003.03 北海道大学 大学院工学研究科 分子化学専攻 修士課程修了
 2006.03 北海道大学 大学院工学研究科 分子化学専攻 博士課程修了
 2006.04～2007.10 北海道大学 大学院工学研究科 特別推進研究室 学術研究員
 2007.11 新日本製鐵株式会社 入社

S-cubic参加

赤い糸会・東京(2006.10)、赤い糸会・札幌(2007.2)



私は、2007年10月まで北海道大学大学院 工学研究科 特別推進研究室で学術研究員として働き、現在、上記会社に勤務しております。大学ではMC・DC・PDと計6年半、耐熱材料に対する新規の高温耐酸化性コーティング開発に関する研究を行い、「高温酸化」に関して学びました。現在、会社では実際の様々な鋼板を想定したモデル鋼板の表面に形成する酸化スケールに関する研究を行っており、大学で学んだ「高温酸化」の知識を生かした仕事をする事ができています。

私をはじめ赤い糸会に参加したのは、2006年第1回の赤い糸会(東京で開催)でした。当初はS-cubicの存在も知らなかったのですが、事務局の先生より参加者を募集するメールが届き、就職というよりも会社の人のDC・PDへの印象や採用に関する考えを聞いてみたいという気持ちで参加しました。思っていたよりもたくさんの方が参加しており、学生も会社も「DC・PDの就職」に興味を持っているのだなと思いました。また、何人かの企業の方と話す機会が持てましたが、多くの方がドクターの採用に関心を持ちながら、どのような学生がいるのか、さらには学生が仕事に対してどのような考えを持っているのかわからなかったといったことを仰っていました。やはり

DC・PDの学生が就職に関して会社の情報があまりないのと同様に、会社も情報が不足しているのだなと感じました。そういった意味でも、赤い糸会は大変意義のあるシステムだと思いました。次々回の第3回赤い糸会にも参加し、そこで今勤めている会社が参加していたのをきっかけに就職することができました。採用の形態としては、3年間のポストドクとしての採用で、2年の時点でその後のことが決められるという制度になっています。会社に入って、仕事の仕方など大学での研究の仕方とは大分違いますが、大学で学んだ専門分野の知識を生かせる業務内容となっているので、大変ですが充実した毎日を送っています。また、会社としてその研究がどのように製品につながるかといったことも考えながら仕事を進めるので、非常にいい経験ができていると感じています。

赤い糸会を通じて就職した良い前例となれるよう、精一杯がんばっていきたくと思っています。最後に、自分の専門分野を生かせる仕事ができるような会社に就職する機会を与えてくださいました、S-cubicの先生をはじめとする関係の皆様へ深く感謝いたします。

Q&A

Q 現在の職種、具体的な業務内容を教えてくださいか？

A 新日本製鐵株式会社 技術開発本部 先端技術研究所 界面制御研究部 研究員。
鋼板上に形成する酸化スケールの構造および酸への溶解挙動に対する種々の元素の影響の調査。高速酸洗および高品質酸洗技術の確立。

Q 現在働いている企業に就職しようと思った理由は何ですか？

A 赤い糸会にて会社の方(技術者)と話をし、自分の専門分野である「高温酸化」の知識を生かせる仕事ができる可能性を大きく感じたため

Q アカデミックでなく、民間企業で働こうと思った理由を教えてくださいか？

A 大学での研究は非常に楽しく興味を持てる研究だったが、実際に何かの製品などに適用することを考えた場合、大きな壁を感じた。企業に入って、「実際に使える」研究開発を試みたいと思ったから。

Q 採用面接で博士卒に対する特有の質問としてどのようなものがありましたか？

A 会社ではDCでの研究をそのままやることはなかなか難しいが、その点はどうかといったことを聞かれた。印象としては専門分野の知識に加え、その周辺分野への知識やそれに興味をもって研究できるかといったことに関して聞かれているような感じがした。

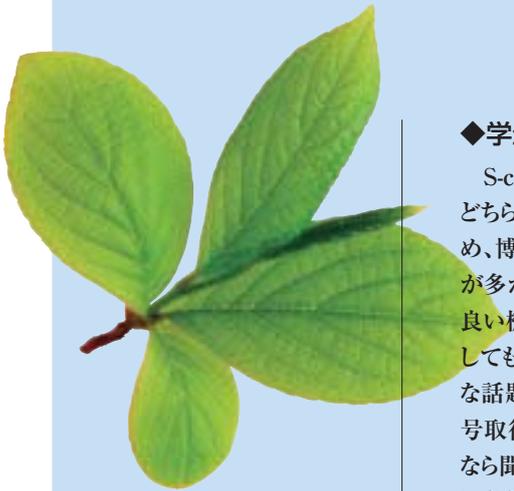
Q 民間企業への就職を希望しているDC・PDの方にアドバイスがあれば、一言お願いします。

A 会社での仕事の進め方などはDC・PDの時のやり方や考え方が非常に役に立っていると感じるのでまずは大学での研究をしっかりやること、専門分野をしっかり身につけることが前提だと思う。その上で、企業への就職を考えた場合、会社もいろいろあるので、S-cubicのプログラムや学会などを利用して、まずは企業の方と話をしてみることが大切だと思う。DC・PDの人にとっては、積極的にたくさんの方と交流することが一番大切だと思う。

Basic COSA 参加の感想



北海道大学 大学院理学研究科 物理学専攻 (DC3)
津田 和実



◆学生の目線で話が聞けるBasic COSA

S-cubicが主催している講演会としてAdvanced COSAとBasic COSAがあります。僕はどちらも参加しましたが、Advanced COSAでは企業の所長クラスの方に講演してもらうため、博士号取得者に期待すること、企業の中での博士号取得者の役割など企業目線の話が多かったように感じました。企業が博士号取得者をどのように見ているのかが直接聞ける良い機会だったと思います。一方、Basic COSAは北大博士卒の企業就職者を招いて講演してもらうもので、博士課程から企業就職後までの話を具体的に話してくれたため、より身近な話題として聞くことができました。なぜアカデミックではなく企業を選んだのか？実際に博士号取得者として働いてみてどのような感想を持っているか？など企業就職に興味のある学生なら聞いてみたいであろう話が直接聞いて非常にためになりました。以下ではBasic COSAに参加してみたの感想をもう少し具体的に話します。

◆スキルアップを求めて企業へ

前回のBasic COSAではそれぞれ違う専攻で博士号を取得した3人の方による講演がありました。30分間の講演と45分間の質疑応答がありましたが、その中で、なぜ企業に就職したのか、現在どのような業務を行っているのか、など色々話してくれました。僕が一番興味があったものの一つは、「なぜアカデミックではなく企業を選んだのか？」についてでしたが、3人の方のお話の中で共通していたのは、アカデミックにいるよりも企業で働くほうが視野を広げることができるという点でした。企業での研究開発では様々なバックグラウンドをもった人たちと一緒に仕事をするため、自分の視野を広げることができ、専門外の分野も含めてスキルアップできるという点に魅力を感じていたようです。そして、実際に働いてみてそのような感想を持っているとのことでした。

◆自分の土台をしっかりもつこと

大学でも企業でも自分の土台をしっかりもつことが大事だという点も共通していました。まず、個人の考え方がしっかりしないと議論ができない。逆に、大学にいる間にしっかり土台を作っておけば同じ考え方はどこに行っても通じる。そのために、大学にいる間は自分の専門性を磨き、そして広げておくことが大事だということでした。企業就職を視野に入れた時に、残りの研究生生活をどのように過ごせばいいのかの参考になりました。

Basic COSAの講演は非常にためになりました。博士卒の就職者の生の声を聞ける良い機会ですので、企業就職に少しでも興味のある方はぜひ参加してみてほしいと思います。

Advanced COSA 体験談



北海道大学 大学院理学院 生命理学専攻 (MC2)
田村 和志



私はMCに進学した当初からDCへの進学を考えていましたが、DCの後に開かれている道については知識不足であったため、Advanced COSAに参加させていただきました。学部4年次の終わり頃、意気込んで「DCに進学したい」という希望を親と担当教員に訴えてみたものの、「その後どうするか」という将来像があまりにも不明確でした。文系出身の同期の友人たちが仕事に就き始めるのを見て、さて自分は一体どんな仕事(研究)に就くのだろうという希望の光で将来像を照らし出そうとしたとき、返ってくる光はありませんでした。私の将来像は、まるで黒体のようでした。

理学部の学生は多くが大学院に進学しますが、その中でさらにDCに進学する人はあまり多くありません。その最たる理由は、DC取得の先に「就職難」という巨大な壁が立ちはだかっているように思われているからでしょう。もちろんPDという選択肢もありますが、PDには任期があるので「問題の先延ばしでしかない」と考えている人も多いと思います。また、狭き門であるアカデミックな職しか目指すべき道がないとすら考えている人もいるのではないのでしょうか。DC進学を決断した時の私は、これらの危機に対して鈍感でした。進路について色々調べたとき、自分は早急な決断をしてしまったのではないかという迷いが生じました。

しかし、Advanced COSAへの参加によって、その迷いを払拭することができました。Advanced COSAで講師をなさった方々は、DC取得後に名だたる大企業の第一線で活躍されている研究者の方々でした。DCの先にある道はアカデミックな職だけではなく、企業研究者としての道もあり、それは十分に魅力的であることを知ることができました。また、Advanced COSAでは企業が求める研究者像を具体的に聞くことができました。講師の皆様がそこで口々におっしゃっていたのは「広い視野を持つこと」でした。それは、自分自身の研究を極めることはもちろん、異分野にも興味をもち多様な研究経験を積むことが企業研究者にとって必要であるということです。それにはMCだけでは事足りず、やはりDC進学が必要であるということ、Advanced COSAを通じて思い知らされました。そして、「自分の決断は誤りではなかった」と考えることができるようになりました。

Advanced COSAは、DC進学を目指す私にとって大きな助けとなりました。最初は何も見えなかった私の将来像ですが、Advanced COSAに参加させていただいてから、あらゆる可能性の光を感じることができるようになりました。DCの間に様々な経験を積み、多くのエネルギーを注ぎ込むことによって、その将来像は自ずと強く輝くであろうことを今では確信しています。

赤い糸会に参加して



北海道大学 大学院工学研究科 環境創生工学専攻 (DC2)
伊藤 暁信

私の就職活動はS-cubicの「赤い糸会」によって始まり、この会に参加したからこそ実現したものでした。このプログラムを利用していなければ、すんなりとは決まっていなかったと思います。

「赤い糸会」においては、目的の会社だけではなく、様々な会社の方々と積極的に話をするようにしました。普段接する機会の無い方々との話を通じて、博士に対するイメージを直接聞くことの出来る良い機会だと考えたからです。中には銀行やシンクタンク等、自分のやっていることは全く関係ない会社や博士を採用したことの無い会社もありましたが、この経験を通してどのような人材が必要とされているのかということを考えるようになりました。

「赤い糸会」終了後に改めてS-cubic事務局を通して研究員の方と連絡を取らせていただきました。自分の研究が直接関係する部署の研究部門長の方を紹介していただき、直接お会いして自分のやっている研究やその企業での仕事についてお話させていただきました。その後、一般応募での選考を経て合格しました。

就職活動を通して心がけたことは、博士課程の学生であるということ意識し過ぎないということでした。私の受けた企業の場合、選考過程において修士と博士の区別は特に無いように感じましたが、修士の学生以上に厳しく評価されるであろうということは意識しました。そのため修士の学生が当然しっかりとやるであろう自己分析や業界研究等も行い、大学のキャリアセンターの個別相談も利用しました。自己分析で自分のことをしっかりと調べ、業界研究や企業研究によって相手のこともしっかりと調べることは、博士課程の学生の就職活動においても重要であると思います。

企業側からすると、博士課程の学生は協調性やコミュニケーション能力に欠け、自分の専門分野に固執しすぎるというイメージが強いと思います。自分のやっている研究が社会にどのように役立つ可能性があるのか、自分がその企業においてどのように貢献することができるのかをしっかりと考え、相手の解る言葉で伝えることができなければ、優れた研究を行っていたとしても、就職活動においては自己満足に終わってしまいます。私たち博士課程の学生にとっては、専門知識や実験技術のみではなく、研究に対してどう考え、どう行動し、どう伝えるかということも評価の重要な要素となるからです。企業や社会が必要としているのは、研究技術そのものだけではなく、それを遂行する「人」だということを改めて感じた就職活動でした。

S-cubic(北海道大学基礎科学DC・PDキャリアパス構築、就職支援)の事業詳細と活動内容は、ホームページからご覧いただけます。

(URL:<http://www.sci.hokudai.ac.jp/s-cubic/>)

■C-net

博士研究者、企業双方のPR・求人情報を掲載する登録制の双方向Webシステムです。(無料)

情報の発信

- ・Web上で、登録研究者と登録企業のそれぞれがPRシートを通して、情報を発信します。
- ・研究者は、自らの専門性、アピールポイント等を発信し、企業に自分の価値を伝えます。
- ・企業は、事業内容や必要な人材の詳細などを発信して研究者に直接ニーズを伝えられます。



情報の検索

- ・研究者は希望する企業情報を、企業は研究者のPR情報をそれぞれ条件を絞って検索できます。



■Advanced COSA

博士の学位を持ち企業の第一線で活躍されている研究所長クラスの方々を講師として、講義形式で大学の中では触れることの少ない企業研究の魅力や研究マネジメント等を、学位取得者の活躍事例を交えながら、ケーススタディとして紹介します。

Advanced COSAは、H20年度より、北大の大学院共通授業科目として実施することとなりました。



■赤い糸会

1会場あたり約20社の企業担当者と約40名の博士研究者が分野を超えて一堂に会します。午後から夜まで、企業からのショートトーク、研究者のポスターによる自己PR、交流会によって企業担当者と研究者の直接交流を行います。この交流によって、今の博士研究者が持つ気質や能力、企業が期待する研究者像等双方に新たな視点が生まれ、研究者がより幅広い産業界で活躍するための礎となります。



参加企業のプレゼンテーションの様子



DC・PDのポスター発表の様子



研究所見学会の様子



研究所見学会の様子

■J-window

企業-博士研究者間の人脈を北大同窓会等のバックアップにより構築し、企業とのマッチングキャリアプランの立て方等をアドバイスします。また、基礎科学領域の博士研究者の意識調査を行い、web上に公開しています。



C-net上でコンタクトしたい企業、研究者が見つかった場合は、まず連絡窓口であるJ-windowへご一報下さい。

DC2とDC3・PDでは就活の仕方は違う!

修士卒で就職したい人がMC1から就活するように、博士卒で就職したい人はDC2から就活することが大事だ。『新卒』として扱ってくれるこの時期を逃してはいけない。

一方、DC3を過ぎると状況は一変する。一度も社会に出ていないから『新卒』として扱ってくれる企業もあれば『既卒』だから中途採用枠でのみ応募可という企業もある。一般的な新卒向け就職サイトではうまく機能しないことが多い。人材紹介会社サイトが使える場合もある。直接人事に問い合わせる必要があるかもしれない。積極的に働きかけよう。

募集要項に『DC募集』と書いていなくても、ひるまず挑戦しよう!

募集要項に『DC募集』と書いていないことがよくある。これはDC・PDを採用しないという意味ではない。その企業にマッチしたスキルや人間性を伴えば、DC・PDであれ積極的に採用しようとする企業は数多く増えてきている。その時、MCとの違いをアピールすることは重要だ。

北大S-cubic事業のC-net登録をすれば、DC・PD向け求人情報を閲覧したり、各種事業にも参加できる。

多様なキャリアパス～自己分析・企業研究は大事!～

DC・PDの研究分野が非常に細分化され多岐にわたるように、DC・PDの就活も様々な方法がある。専門分野とマッチした職種を探す場合であれば、各種就職サイトを見るだけではなく所属学会誌・HPなどに掲げている企業求人情報に注目することも有益だ。研究職以外にも理系DC・PDの活躍の場はある(サイエンスコミュニケーターや弁理士など)。職種や企業の研究だけでなく、どう生きたいか、そのためのスキルはあるか、など自己分析を行うことは非常に大事だ。いずれにしても、自分が積極的に動いてこそ必要な情報を得ることができる。

アカデミックポストを目指す

アカデミックポストを目指す人も、研究だけにのめりこんでいるわけではない。現在、多くのアカデミックポストは任期付であり、そのポストを探すために人材データベースなどを使って『就職活動』を行うことがある。また、学会に自ら参加して研究交流を行ったり、学会が企画する人材活用イベントで自己アピールする機会を利用するのもよい。

研究するためには、お金が要る。各種の研究助成に応募して研究費(外部資金)を獲得していくことも重要な仕事となる。アカデミックポストを目指すには、若手向けの研究費申請方法などを経験することも、スキルアップとなる。

大学院以降の就活のタイミングと企業の採用枠



Webによる求人・助成情報の入手

- 〈北大〉
- S-cubic HP (C-net登録、Advanced COSA受講、赤い糸会参加、J-window窓口)
- 北大キャリアセンター
- 〈個々の企業HP〉
- 〈人材紹介会社サイト(一部)〉
- リクルートエージェント 転職支援のリクルートエージェント
- リクナビNEXT 社会人のための転職サイト
- MY PLACE マイナビ転職エージェント
- マイナビ転職
- D・F・S 大学院生、第三新卒の人材コンサルティングサービス
- 人材バンクネット 働きながらの転職をサポートする転職情報サイト
- いい就職.com 日本の若者のいい就職応援サイト
- JOB@IT ITエンジニアのための「転職」「スカウト」「派遣」支援サイト
- JREC-IN 研究者人材データベース (独) 科学技術振興機構
- CAPLAN バイオ・メディカル求人情報サイト
- トランスサイエンス・キャリア 管理職・バイオ中心の人材エージェント
- 日経Biotechnology Japan バイオサイエンスポータル 研究職求人

- 〈人材データベース〉
- JREC-IN 研究者人材データベース
- CAPLAN
- トランスサイエンス・キャリア
- 日経Biotechnology Japan など
- 〈研究助成など〉
- JSPS(独) 日本学術振興会
- 特別研究員
- 若手研究のための研究費
- 科学研究費補助金
- JST(独) 科学技術振興機構
- NEDO(独) 新エネルギー・産業技術総合開発機構
- 生研センター
- JFC(財) 助成財団センター
- 文部科学省 科学技術・学術サイエンスポータル 研究・留学助成

イベント・アクセス



北海道大学基礎科学S-cubic事務局
(2008.3.31発行)
〒060-0810
札幌市北区北10条西8丁目
北海道大学 理学部 本館2F N226B室
TEL:011-706-3275
FAX:011-706-3584
E-MAIL: s-cubic@mail.sci.hokudai.ac.jp
URL:http://www.sci.hokudai.ac.jp/s-cubic/

本冊子に関してのご質問、ご相談及び配布のご希望については、北海道大学基礎科学S-cubic事務局で受付しております。
※この資料を許可無く無断転載・配布することを禁止します。

■編集後記
「S-cubic通信 2008」初刊の発行を無事終えることができました。冊子作成にあたり、S-cubic登録研究者の皆さんと打ち合わせを何度か行い、様々なご意見、ご要望をいただきながら編集をすすめることができました。
お忙しい中記事を書いていただいた北大OBの方、在学中の方、記事編集に協力していただいたS-cubic登録研究者の皆様、本当にありがとうございました。

EVENT S-cubic イベント (H20年度の予定) ぜひ S-cubicを利用してください。

- 4月 J-window リニューアル (J-window がより利用しやすくなります!)
- 6月 Basic COSA 開催 (好評の Basic COSA を今年も実施します!)
- 8月 Advanced COSA 開催 (大学院共通授業科目となりました!)
- 9月 赤い糸会・東京(1) 開催 (好評の企業研究所見学会を今年も実施します!)
- 10月 Advanced COSA 開催 (大学院共通授業科目となりました!)、シンポジウム 開催
- 11月 赤い糸会・東京(2) 開催 (好評の企業研究所見学会を今年も実施します!)



■ S-cubic通信 2008 NO.1

DC・PDのための進路選択ガイド

Career path Guide